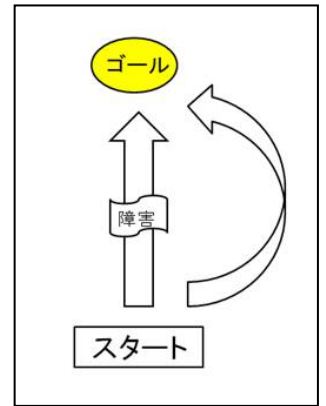


「急がば回れ」

1. ヒラメキと直感

9月のブログで「直感・読み・大局観」を書いています。(下記 URL 参照)
<http://amiami.txt-nifty.com/blog/2022/09/post-2ef511.html> このブログでは「直感」と「ひらめき」の差は「直感は Why を語れるもので、感覚的なものはひらめき」と定義している。人生には「ひらめき」で判断する事も多い。羽生九段は「Why」を語れるものを「直感」と言い、語れないと「ひらめき」という事です。右掲は、スタート台に立った時に「ゴール」へ一直線に思える事が多いが、そ途中に「障害」があって思わぬ道草を取る事を示しています。例えば、高速道路で遠方に行く際、距離優先でルートを選ぶ事が多いですが、事前にネット検索すると工事予定や渋滞予測が出ており「迂回」する方が時間的に早い場合があります。これは「想定外」という範疇ではありません。交通情報は日常的に報道されていますので、本来なら「想定」の範囲内で決断して敢えて逆に行くケースもあり得るのです。

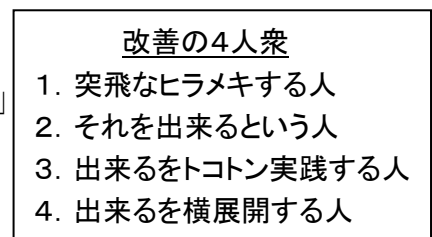


つまり、情報化の時代なので事前に調べる事が出来るので「急がば廻れ」は「急がば調査」と置き換えることが出来るのです。「調査」に「調べる」と「訊く」の2要素があると考えています。自分で調べる時代ですが、個別の課題は専門家に訊くことも重要な時代です。私は、今回の大手術で事前に入院期間を訊いていて、担当の先生から「早い人なら2週間で退院」と聞いていたのですが、その後、自宅やリハビリ専門病院で養生する事を聞いておらず、退院＝元気というイメージを勝手に思っていたのです。確かに、退院前は院内廊下でリハビリに取り組んでいて、200mほどの歩行が可能になっていました。

しかし、誰も早く目的を達成したいのも人情です。この状況が続くと思いついで、退院の当日、予定していたオンライン会議を行なったのです。僅か1時間半ほどですが、意外に体力を消耗して体温が34.8度に下がったのです。仕事は体力を消耗するもの、場合によっては「命を短くする」というリスクがある事を実感して、他の方々が仕事されている事に違った感慨を持つようになり、言葉ではなく「労う」という事の重要性を痛感したのです。

2. 「直観力」と到達系

右掲は「改善の4人衆」と呼ばれるものです。「出来る」とヒラメキ事が第1ポイントです。よく「3つの'不'」と言いますが、不満や不都合、不足などをボヤク事が重要です。その中に「突飛なヒラメキ」が含まれており、それを見逃さない事が重要です。それを取り上げて出来るようにする到達系を描く訳です。この到達系を何工程かに分けて実現しやすい事から着手する事で「到達系」に従ってゴールに向かって歩んで行ける訳です。

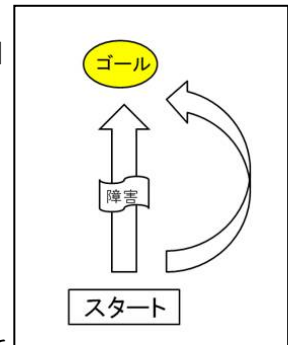


つまり、何事も「出来る」ように分解する事が大切です。「分解」は場合によって、要素の「調査」に置き換わります。まず、要素分解する能力が重要です。平素から経験しておき、その体験から要素分解が出来るようにしておく必要があります。私自身は直観派で大体「イける！」と閃いた事柄は即着手して手掛かりを得るようにしています。この手掛かりを元にして少しずつレベルアップして「イける！」に近づけて行っています。「改善の4人衆」で言えば、1～3を手順を踏んで実践している感じです。「すぐやる、トコトンやる」という主義ですが、最初の一步で躓かない事がポイントです。例えば、自分で解決できない課題の場合は、トヨタで言う「7人の友達」のような存在の方に教えを乞い、自分なりに咀嚼するケースもあります。とにかく、「訊く」という習慣を大切にしています。「訊く」事で自分なりの手掛かりを得る訳です。

3. 急がば回れ

しかし、今回の大手術では大失敗をしています。手術前、担当医は早い方なら2週間で退院するという説明だったので、これを鵜呑みしていたのです。実は、大阪警察病院は手術が専門の病院で傷の回復後は自宅カリハビリの病院に行くケースが殆どなのです。担当医は退院後すぐにオンライン会議を行なうと話したら、多くの方はリハビリで養生すると言って下さっていました。私自身は1~2時間のオンライン会議なので体力的消耗は少ないと思っていて、気楽に考えていたのですが、実際は、会議後、体温が34.8度まで下がる程の影響を受けていました。

右掲は第一項の図ですが、ゴールに向かう道筋は幾通りもあるのです。誰もストレートにゴールに向かいたいのは人情ですが、それなりに「障害」があるのです。私の場合、休めないという事情があったので迂回出来なかったのですが、出来れば時期を調整して少しでも迂回できる余裕があれば、結果が随分違っていただろうかと思っています。まさに「急がば回れ」の格言だと痛感しています。退院した週は、もう1件の会議があり、何とか仕事を果たしましたが、予後に大きく影響を与えました。体力的にマイナス状態からスタートとなり、体力回復の為に「栄養をつける」という事で食べ過ぎようになり、結果、「痛風」を引き起こして「歩く」という基本運動が困難になり、後の回復に大きく影響を与えています。勿論、私自身が楽観的過ぎたという反省点がありますが、「仕事」という性格上避けられなかったと思っています。



4. 「一呼吸」と「1onN法」

前項で「急がば回れ」と書いていますが、交通渋滞という事実を知ると「迂回ルート」を探しますが、そんな時でも逆に判断して渋滞に向かう場合もあります。よく一呼吸と言いますが「ちょっとした間合い」が大きな意味をもつケースがあります。「イける！」というヒラメキを一呼吸して冷静に分析して確信が持てるようになります。例えば、渋滞予報に対して迂回せずに向かう場合、刻々と渋滞時間が減少するケースがあります。確かに、渋滞は残っているが、仮に迂回していたルートが込み合う状況が出て「決断」に確信を深めた経験があります。

今号の「急がば回れ」は退院後の復帰について書いています。私は楽天的に退院すれば、普通に動けると思い込んでいたのです。多分、主治医の先生は「皆さん、養生してから」というだけだったので、自分では退院後のオンライン会議は大丈夫と確信していたのです。その上、仕事の日程でギリギリだったので他の選択肢はなかったのです。その結果、体力が低下して、その対策として多くの食事を頂くようにしたのです。運動不足の状態でもエネルギー過剰になり、最後は、「豚マン」が引き金になって痛風を起こしたのです。この結果、歩く事が困難になり悪循環になったのです。このように、素人判断が災いしたのです。

「急がば回れ」ですが、このような悪循環にならないようにするには「ベース」の事が大切であり、その余裕があって次の事と実感しています。経営改善の相談でも一挙に改善できる事を望まれる傾向がありますが、改善策を打ち出す以前に足元の諸要素を固めておく必要があります。特に、「人・物・金・情報」と言いますが「人の心」が見えないだけに難しいのです。「人はパンのみにあらず」と言いますが、ベースはパンにあります。外部にお金を払って改善するにも実践するのは社員の方々です。仮に、外部への投資が成功しても最後の仕上げは社員です。「1onN法」と言っていますが日頃から社員への声掛けが重要です。ベースを固めると言いますが、社員とのコミュニケーションはシンプルですが意外に難しい大きな要素なのです。つまり、「急がば回れ」の基礎は平素の「1onN法」と考えています。